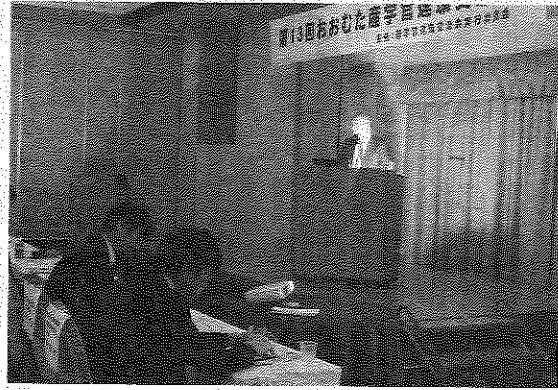


下請けからメーカーに成長

産学官連環交流会120人参加

第十三回お

おむた産学官連環交流会が五日、ホテルニューグアイアオームタガーデンであり、下請工事業社から鉄道部品のメーカー企業になった昭和テックスの吉永克美会長が基調講演。福岡大学、有明工業高等専門学校、帝京大学福岡医療技術学部の研究者や、産学官連携で製品開発に取り組んでいる会社社長が研究内容や事例を発表した。



ガーデンであった交流会

帝京大福岡医療技術学科の佐藤正広准教授が「大牟田市における透析医療の現状」をテーマに、それぞ

れ研究内容を発表。矢部川電気工業の阪本一平社長が「産学官連環事業の成果」をテーマに事例を発表した。そのほか、九州経済産業局の担当者による「技術開発関連支援制度の説明」もあった。

交流会には行政や、教育機関、企業などから約百二十人が参加。まず吉永会長が「中小零細企業の挑戦」下請工事業社がメーカーを目指した」をテーマに基調講演した。

講演で吉永会長は鉄道の機械式信号製造から、レール溶接工事の下請けとなり、レールのつなぎ目を

に使う「レールボンド」を開発。特許を取得。現在、依頼を受けたJR東日本以外にも、JR各社で使われるようになったことなどを語った。同社は、ものづくり日本大賞で一回、優秀賞を受賞している。ほかにも、福岡大工学部の田中照久助手が「鋼材とコンクリートをつなぐ接合デバイス」の開発、有明高専電子情報工学科の石川洋平准教授は「まちなかシリコンバレー」とICL a bの価値づくり戦略、